

講義名	環境問題の多面性			
科目区分	教養科目			
担当教員	酒井 彰 / 持田 信治			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限			
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科			
履修開始年次	2年生	単位数	2	講義コード 25019

主題と概要

本講義では、環境問題を自然科学・社会科学・人文科学の立場から総合的に論じる。環境は人間にとって様々な価値を提供しており、その価値は代替できないものであることから、環境政策や適正技術によって、人間と環境の望ましい相互作用を持続させていくが必要になる。

講義前半では、人間の社会活動や科学・技術の発達が地球環境に与える影響をエネルギーと地球温暖化の観点から捉え、食の安全を含めた今後の人間社会が抱える課題を環境問題と共に考える。（持田担当）

講義後半では、環境政策を組み立てるための環境経済学の基礎ならびに環境経済学に基づく環境政策について学ぶ。また、地球規模の環境問題に関わる国際的な環境政策の動向を知る。（酒井担当）

到達目標

自然科学・社会科学・人文科学という多面的なアプローチを通して、環境問題の実情を理解し、さらに、その問題への正しい姿勢を模索する。

提出課題

ほぼ毎回の小論文ないしは小問題

評価の基準

平常点（小論文/小問題の評価が中心）：40点
定期試験：60点

履修にあたっての注意・助言他

・毎回、出席をとる（10分以上の遅刻は認めない）。
・私語、途中退室には適宜手段を講じる。

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

『はじめての環境経済学』ジェフリー・ヒール著（東洋経済新報社）
『ノンフロム技術』財団法人（ヒートポンプ社・蓄熱センター編（オーム社））

授業計画

1. イントロダクション / 環境への関心に関わるアンケート
2. 環境問題（科学技術の発達と変化に伴い、変化していく産業をとりまく環境や規制を概観する）
3. 地球温暖化問題（科学技術の発達や工業の発展と温暖化、オゾン層破壊の関係を概観し、課題を知る）その1
4. 地球温暖化問題（科学技術の発達や工業の発展と温暖化、オゾン層破壊の関係を概観し、課題を知る）その2
5. エネルギー問題（エネルギー利用の観点から地球環境を考え、今後のエネルギーと社会生活を考える）その1
6. エネルギー問題（エネルギー利用の観点から地球環境を考え、今後のエネルギーと社会生活を考える）その2
7. 食品の安全性（食品添加物の現状と食品衛生や食の安全について知り、現代の食に対する考え方を検討する）
8. 社会生活と地球環境（人間の社会活動と地球環境について考え、今後の人間社会の課題を考える）
9. 環境の経済的性格 / 環境倫理学の主張
10. 環境経済学の基礎：社会的費用、公共財
11. 生態系サービス / 環境の経済的価値：森林・水資源・生物多様性
12. 環境政策（1）：経済的手段
13. 環境政策（2）：届出・手続き、自主的取組
14. SDGs（持続可能な開発目標）における環境問題への対応(1)
15. SDGs（持続可能な開発目標）における環境問題への対応(2)
第1回～8回：持田担当、第9回～：酒井担当

予習・復習

授業の進行経過に即して、上記の著作ならびにそれに関する解説書などにあたりながら、授業の理解に努めるように。

備考